

教育・学生担当理事

東山 紘久



KYOTO
UNIVERSITY
TOPICS

オープンキャンパス

平成16年8月17日、18日の両日にオープンキャンパス2004『感じる日。』を開催し、高校生や保護者を含め、2日間で約7,000名が参加しました。メイン会場となった百周年時計台記念館では、尾池総長の「京都大学を目指す諸君へ」と題した講演、応援団の演舞、在学生からのメッセージがあり、また、各種相談コーナー、各学部主催の模擬講義、研究室訪問、学生ボランティアによるキャンパスツアー、図書館、総合博物館や百周年時計台記念館歴史展示室の公開などが行われ、参加した高校生にとっては、まさに京都大学を『感じる日。』となりました。



学問に触れる試み

法人化を機に大学の社会貢献や社会連携が拡大されました。大学は学生の教育と研究が目的ですので、どのような学生に来てもらいたいかは、アドミッションポリシーとして、重要視されています。今の学生は大なり小なり受験戦争の影響を受けています。「はじめに受験あり」ではなくて「はじめに学問あり」の受験生の入学を大学は望んでいます。そのため、大学受験をまだあまりイメージできないと考えられる中学生を対象として、学問の本質の一端に触れてもらおうと「ジュニアキャンパス」が計画されました。また、それに引き続き「高大連携特別授業」や「オープンキャンパス」が、高校生と受験生を対象に実施されました。学部・大学院教育は

本来的活動ですが、さらに、京都大学に思い入れがあるシニア層を対象にした「シニアキャンパス」の試みがなされ、平成17年度も実施されます。



京都市教育委員会との協定に基づき、教育現場に学生ボランティアが派遣できるようになりました。

授業料について

法人化にあたり値上げは行わないと国会で答弁されていた授業料標準額が1万5千円、唐突に値上げされました。その結果、授業料標準額の値上げによる増収額に相当する運営費交付金が減額されました。授業料標準額の値上げに対して京都大学としてどのように対処するかについて検討されましたが、値上げをしない場合、毎年3億円以上の収入減になり、教育・研究の低下を招くことが懸念され、値上げをすることになりました。検討にあたっては、総長から所感が出され、学生、教職員の理解と協力を求めるとともに、経済的困窮学生の支援のために大学独自の授業料免除が3千万円計上されました。日本学生支援機構の大学院生に対するの奨学金返還免除に関しては、大きく変わりました。従来は、定められた免除職に、ある一定期間就職すると奨学金返還が免除されましたが、平成16年度採用者から修了時の業績で免除学生が決定されることになりました。

さまざまな話題

京都にある大学間の幅広い連携のために、大学コンソーシアム京都加盟大学との単位互換協定に参加しました。また、京都大学は、人生を真剣に考える学生が多いことから、カウンセリングセンターを訪れる学生は全国平均の2倍以上です。学生・職員を問わず、カウンセリングセンターのサポートを希望する人々が増加しています。平成17年度からカウンセリングセンターの教員が1名増員され、できるだけみなさんの希望に添えるようにいたしました。福利施設を充実するため、平成16年12月に吉田構内にローソ

「学生ボランティア」学校サポート事業

京都市教育委員会が実施している、市立の学校や幼稚園に大学生を派遣する「学生ボランティア」学校サポート事業に大学として参加することになりました。この事業では、学生が正課外のボランティア活動として、学級担任の補助、生徒の諸学校行事・部活動等の補助、総合学習の支援、放課後における子供の学習相談などに参加します。学生の社会における体験的活動を通じて多様な能力や社会性の育成、実践による知識・技術の体験的修得が見込めるものと期待されており、平成16年度は15名が参加しました。

京都大学の授業料の検討にあたって(所感)

URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/01_sou/050222.htm

平成17年2月22日

法科大学院開設

平成16年4月1日に開設した法科大学院では、実務家教員による双方向・多方向形式、講義形式、演習形式を用いた授業を行うとともに、法律事務所などでの研修(エクスターンシップ)や大学院内における法律相談(リーガルクリニック)の制度を設けています。



ローソン



ンが開設されました。

平成16年度、京都大学で大きな話題になったことが2つありました。第一は、平成19年度の入学試験から後期日程の5教科の共通問題試験を廃止することが決定されたことです。国立大学協会は入試の抜本的改革を平成18年度から実施することを3年前から検討していました。しかし、法人化の時期とも重なったこともあり、18年度はおろか20年度の2次試験も現在の分離分割方式を踏襲することを国立大学協会は決定しました。これに対し

卓越した知の継承と創造的精神の涵養

「特色ある大学教育支援プログラム」として「相互研修型FDの組織化による教育改善」が採択され、「大学教育学」研究の知見と、こ

れまでのFD実績を通して得られた相互研修型FDの諸手法を、統合的かつ効果的に適用するための取組(授業および卒業研究アンケートの実施など)を推進しました。

これらの取組は、個々の教員レベルの授業

改善のみならず、学部単位のカリキュラム改善への活用が企図されているという特徴を持っており、京都大学ならではの相互研修型FDの全学的組織化と教育のさらなる改善に向けて着実に前進しているところです。

全学共通教育教務情報システム KULASIS(クラシス)の稼働

学生への全学共通科目に関する情報伝達やシラバス公開、さらには履修登録などの電

子化を目的とした全学共通教育教務情報システムの開発が進んでいます。各学部設置している全学共通教育用の電子掲示板やweb上から、休講情報、補講情報、教室変更、教員変更、曜日時限変更、試験情報、学生の

呼び出し情報、緊急情報が得られるようになったほか、定期試験の時間割、レポートの提出期限の情報を得ることができる個人用のマイページも開設されました。

*KULASIS...Kyoto University's Liberal Arts Syllabus Information System

キャリアサポート・センターによる就職活動支援

*各学部・研究科の就職担当教員一覧、過去の就職先一覧が盛り込まれた「就職のしおり05」(A4版60頁)を作成しました。

*就職相談室を開設し、就職支援企業の相談員が年間300件の就職・進路に関する相談に対応しました。

*就職ガイダンス、企業ガイダンス、公務員、公社関係等ガイダンス、公務員模擬面接等を年間を通して実施し(8月を除く)、約8,700名の参加を得ました。

行事名	実施回数(日数)	のべ参加者数(名)
就職ガイダンス	6	1,568
企業ガイダンス	16	2,141
キャリアデザイン講座	2	28
合同企業説明会	4	3,172
公務員・公社関係各種ガイダンス等	13	1,161
国家公務員 種採用試験対策講座(有料)	2	41
SPI模擬テスト	2	52
就職セミナー：ビジネスマナー等	2	44
就職セミナー：各種講演会等	5	403
就職セミナー：自己分析等	8	39
就職セミナー：エントリーシート添削	14(日)	66
模擬面接	14(日)	52
計		8,767

京都大学は、入学者選抜方法研究委員会で検討した結果、上記のように後期日程の5教科の共通問題試験廃止という結論に達したのです。高校や受験生・保護者からの反発は今のところ見られません。なお、平成19年度からの後期日程の入学試験をどのようにするかについては、現在のところ検討中です。

第二は、歩行者の安全を目的とした百万遍門の改修計画を巡っての学生の反対運動の激化です。石垣を道路から後退させて積み直し、立て看板を立てることを妨げないとの大学の意見に対して、今まで通りの石垣を残してほしいとの学生側の思いがぶつかったのです。学生たちとの話し合いは、10カ月にわたるものでした。

京都大学は、歴史のある大学です。建物も施設も古くて狭くなっています。課外活動の設備も学生寮も同様の状況です。改修の必要な建物が急増する一方で、国の財政危機とも関連して、それらの改修のための予算はますます厳しくなっています。研究資金も競争的資金に変わってきています。法人化にともない大学独自の資金の獲得が急務になっています。私立大学は、設備充実費などの名目で、学生から諸費用を納入させています。しかし、教育の最大の受益者は国であるとの考えから、また、西欧並に少なくともGDPの1%は、高等教育費に充てるべきであるとの考えから、国費の投入を要求しています。平成16年7月2日に、総長は、同志社大学学長、立命館大学総長と3名連名で「高等教育の充実に向けて(要望)」を文部科学大臣、財務大臣など関係大臣へ提出しました。法人化され財政が削減されるなか、私立大学とも連携して、今後ともみんなで頑張っていきたいと思いを。以上何かとあわただしい法人化1年目でした。

百万遍門改修計画 - 石垣をめぐる -

百万遍門周辺は、歩行者、自転車や車両等が混在し、また見通しも悪く接触事故が発生するなど、大変危険な状況にありました。これらの問題を改善するため、オープンなスペースと歩行者専用の門を設け、石垣を再利用したうえで少し移動して安全性の高い百万遍門につくり直すことを計画しました。

この計画について「石垣が撤去されるのでは」「立て看板を立てる場所がなくなる」と考えた学生たちは、石垣の上に櫓(やぐら)を組んでカフェを作り、その背後の敷地に石垣寮を作りました。カフェは、マスコミ等の報道もあり、市民や観光の名所となり、石垣撤去反対の署名がたくさん集まりました。

3回の説明会を開催して、石垣を最大限残すことで話し合いがつき(平成17年8月)、学生たちは自主的にカフェと石垣寮を撤去しました。この話し合いは長期間にわたりましたが、京都大学らしい解決であったとの意見が多く寄せられています。



当初の完成イメージ



石垣の上に組まれた櫓(やぐら)